

平成29年産雑豆の作付面積と 生産状況について

(公財) 日本豆類協会

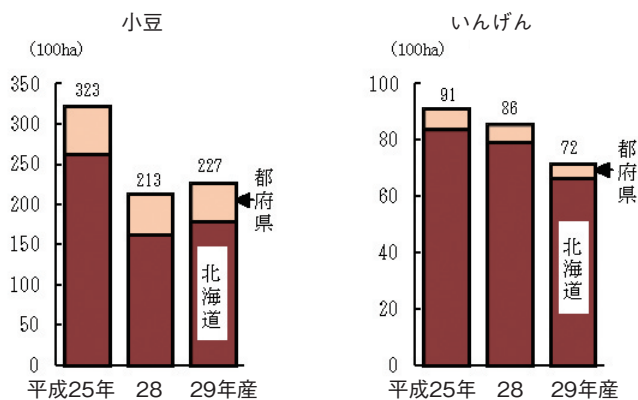
1 平成29年産雑豆の作付面積

農林水産省大臣官房統計部では、平成29年10月24日付けで「平成29年産大豆、小豆、いんげん及びらっかせい（乾燥子実）の作付面積」について公表しました。ここではその調査結果から雑豆に関する部分を抜粋して、下記のとおり紹介します。

(1) 小豆

小豆の作付面積は2万2,700haで、前年産に比べ1,400ha（7%）増加した。

このうち、主産地である北海道の作付面積は1万7,900ha（全国の約8割）で、いんげんからの転換等により、前年産に比べ1,700ha（10%）増加した。



田畑別・地域別作付面積

(2) いんげん

いんげんの作付面積は7,150haで、前年産に比べ1,410ha（16%）減少した。

このうち、主産地である北海道の作付面積は6,630ha（全国の約9割）で、小豆への転換等により、前年産に比べ1,310ha（16%）減少した。

表1 平成29年産小豆（乾燥子実）の作付面積

区分	計			田			畑		
	作付面積 (ha)	前年度との比較		作付面積 (ha)	前年度との比較		作付面積 (ha)	前年度との比較	
		対差(ha)	対比(%)		対差(ha)	対比(%)		対差(ha)	対比(%)
全国	22,700	1,400	107	3,240	△110	97	19,400	1,500	108
うち北海道	17,900	1,700	110	1,250	△10	99	16,700	1,800	112
滋賀	52	1	102	37	7	123	15	△6	71
京都	461	△32	94	435	△32	93	26	0	100
兵庫	690	△9	99	649	△9	99	41	0	100

表2 平成29年産いんげん（乾燥子実）の作付面積

区分	計			田			畑		
	作付面積 (ha)	前年度との比較		作付面積 (ha)	前年度との比較		作付面積 (ha)	前年度との比較	
		対差(ha)	対比(%)		対差(ha)	対比(%)		対差(ha)	対比(%)
全国	7,150	△1,410	84	318	26	109	6,840	△1,430	83
うち北海道	6,630	△1,310	84	263	31	113	6,370	△1,340	83
うち金時	5,070	△1,100	82	…	…	nc	…	…	nc
手亡	1,060	△140	88	…	…	nc	…	…	nc

注：種類別（金時及び手亡）については、全国推計及び田畑別の調査を行っていない。

2 平成29年産雑豆の生育状況（北海道）

北海道庁では、営農指導を的確に行うため、5月15日から10月15日までの間、毎月2回、農作物の生育状況を調査した結果を公表しています。9月以降の雑豆の生育状況は以下のとおりです。

(9月1日現在)

8月の気象は、上旬・中旬にオホーツク海高気圧からの冷たく湿った気流の影響で、オホーツク海側と太平洋側を中心に曇りの日が多く、気温も平年を下回る日が多かった。全道的には、月平均気温は平年並で、月降水量・月間日照時間は少なかった。

- ・小豆の生育は、平年並みに推移している。
- ・菜豆（金時）の生育は、やや遅れている。

(10月1日現在)

9月の気象は、上旬・下旬で、高気圧の張り出しの中にあって晴れた日が多かった。中旬は台風18号の通過や気圧の谷の影響で、雨の日が多くなった。月平均気温は平年並で、月降水量・月間日照時間は多かった。

- ・小豆については、9月中旬の低温による登熟の遅れとその後の降雨により、収穫作業は遅れている。

- ・ 菜豆（金時）については、9月中旬の低温による登熟の遅れとその後の降雨により、収穫作業は遅れている。

(10月15日現在)

10月前半の気象は、高気圧の低気圧が交互に通過したため、天気は短い周期で変わった。また、上空の寒気の影響により全道的に気温は低く、降水量・日照時間は少なく推移した。

- ・ 小豆の収穫作業は、やや遅れている。
- ・ 菜豆（金時）の収穫作業は、断続的な降雨の影響により遅れて終了した。



帯広市川西 きたろまん (9月7日撮影)



帯広市大正 手亡 (9月7日撮影)